



フランスのコルマルの宿で出逢った
ハクセンブルグのライダーと

6/25
 熱帯夜が続く東京を出発。フランクフルト空港には福島君が足の弱った母親のために車椅子を用意して待っていてくれた。
 入国審査では私の着ているBMWのロゴ入りのポロシャツを見て審査官が「BMWじゃないか。車か？バイクか？」と聞くので、「バイクだ！ガルミツシュで7/2に開かれるミーティングに参加しに来た。」と答えると「よく来てくれた」と歓迎の言葉！日本の入国審査にも、このくらいのフレンドリーさが欲しいね。
 フランクフルトBMWでR1200GSをレンタルして、いざ出発！
 「つん？天気は良いけど寒いぞ」
 去年はヨーロッパが猛暑。
 10年前だってこの時期は30度近くあったはずなのに。これが普通のヨーロッパの気候と聞かされちょっと装備が不安に。
 アウトバーンを抜けて、フランス・コルマルで1泊。



トロットバイクで駆け下りる...最高！

おおはしゃぎで急坂を下った。これはお勧め！

10年前はきれいに晴れていたが今回はガスがかかっている。早めに降りることにするが、途中駅から母と姉を除くわれわれ3人は「トロットバイク」なる。ペダルもサドルも無い自転車？で降りることとしたがこれが最高にエキサイティングで楽しい！後部の荷台に腰掛け「前傾フォームだ」と



翌朝フィルストへ登る。(右上写真)

6/27、28
 女房と二人で1ヶ月ヨーロッパをツーリングしたときに、特に気に入った「シャッセラル」を経てスイスへ。グリンデルワルド泊。思い出の「アイガーを望むテラスレストラン」で夕食。
 (下写真)



夜9時半でもまた明るいの

ツェルマットに向かう。ツェルマットに入る駅の駅前駐車場に車とバイクを置いて電車で村内に入る。(排ガス規制で電気自動車と馬車しか走れないのだ。左・下写真)



夜半、カミナリが鳴っていたが、早朝目覚めると見事に晴れ渡り、マッターホルンがくっきりと！
 急遽、朝食をキャンセルして始発のゴルナーグラーツ山岳電車に乗る。観光客がまだいない中、マッターホルンとモンテローザを独り占めにし山岳ホテルのテラスでビールとサンドイッチの朝食。

観光客が「すし詰め」の山手線状態で登ってくる頃、我々は空気のくだり下りてホテルをチェックアウト。バイクのもとへ向かうという実にスムーズな手順であった
 (このやり方もお勧め！)



山岳鉄道駅で若大将ポーズ！

~寒さにや参った!!~ ヨーロッパ 親孝行ツーリング



ゴルナーグラーツ



シャッセラルにて...はいポーズ！



ステルビオ峠の天国



ノイシュバインシュタイン城見学。車イスがダメなら先に言ってよ~。

26.June - 6. July. 2004
 text & photo Syu TANAKA
 (MOJ ID#3-6491)

「84歳になる母の誕生日に」
 6月26日から7月6日の日程でヨーロッパをツーリングしてきたのでご報告します。
 私自身は4度目のヨーロッパツーリングですが、今回は10年前、ツーリングクラブ(すっかり倶楽部)のメンバーでヨーロッパに行ったときに母親を同行したもので、その足跡をたどりたいという彼女のリクエストによるものでした。
 私と女房がR1200GSのタンDEM、母と姉、現地の友人福島君(10年前のヨーロッパツーリングに同行したのがきっかけで現在フランクフルトに移り住んでいる)が車という、バイク1台、車1台の観光ツーリング。途中7月1日は母親の誕生日祝い(84歳!)をし、7月2日はガルミツシュバルテンキルヒェンで行われる「BMWバイカーズミーティング」に参加するのが大きな目的です。



朝一番で晴れ渡ったマッターホルン



お約束のお立ち台。この2時間後は観光客でごった返す。

ステルピオ峠
 スイスのフルカ峠やグリムセル峠も走り応えがあって大好きなのだが、このステルピオ峠にはかなわない。60km以上もワインディングが続くのだ。連なった二つの峠で構成されており、その真中に平らな場所があり、ここが天国のように静かで美しい。10年前もここで休憩しており今回も勿論写真休憩をとった。手彫りのトンネルあり、センターラインオー



ステルピオ峠山頂から望むひたすら続くワインディングを見よ！

ステルピオ峠の中央盆地～ここは美しく静かだ



バー必至のヘアピンカーブありのこの峠はバイク乗りのメッカであり、この日も平日にもかかわらずバイクが一杯いた。スーパースポーツモデルは荷物を積んでいないので地元のバイクかと思っただけで、ドイツやルクセンブルグから来ている。どうやらバイクをトレーラーに積んでアウトバーンを運び、峠だけ楽しんでいくらしい。何てリッチな！！今夜はステルピオ峠を抜けてすぐの標高2000Mの村、ソルダ泊

ドロミテのポルダイ峠
後ろの山はサッソルンゴ

ドロミテのポルダイ峠を越えて（ここが又素晴らしい）オーストリアのインスブルック泊。今夜は和食レストラン「甲斐」で母親の誕生会をする。



カナツェイのホテルチロルを訪れて女主人と

7/1
 ソルダを出発。10年前お世話になったカナツェイの「ホテルチロル」の女主人を表敬訪問。オバちゃんになっていた。（こちらももおっさんになっているのだが・・・）

イタリアの地中海で採れた魚（直線距離で500kmもある）でこさえた刺身の船盛りとシャンパンで乾杯！（いつまでも元気でいて下さい）



コルパツェ展望台、山頂を歩く豆粒のような人々と雪解けの池

「ユリア峠はローマに通ず。」
 6/29

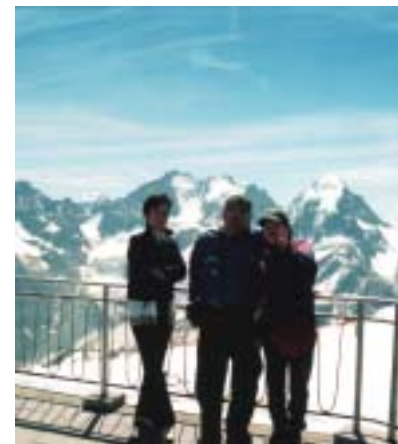
ユリア峠のふもとのチエフェンキヤッスルという村のホテルに泊まる。（村で一軒のホテル 家族経営みたいだ）このへんはロマンシユ語圏で高速の出口看板すら何て書いてあるか解らない。ドイツ語の堪能な福島君ですら、全く理解不能と言う。聞いてみるとスペイン語に近いかもしれないと宿の主人は言っていた。ユリア峠は、かつてジュリアスシーザーがローマから遠征したときに、

通った峠であり、まさに「全ての道はローマに通ず」の1本なのだ。大変に綺麗な峠で、10年前は走り過ぎてしまつて母親にクレームを戴いたので今回は休憩しながらゆっくりと通る。（それにしても寒いぞ 天気は良いのに気温は10度くらいしかない！）ユリア峠を下ったところにある、サンモリッツ近くの静かな街、シルヴァプラナからコルパツェ展望台へと登る。標高3380Mまで一気に登るのだ。

ユリア峠の湖でひと休み



母親の車椅子を見た係員がタダだと言っ。これはもうけたと思つて山頂まで登つて合点。車椅子の団体が来ていたので、どうも間違えられたみたい・・・（母親は身障者ではなく単に寄る年波で足腰が弱つただけのこと）素晴らしいパノラマを堪能した後はシルヴァプラナ湖畔でピクニック。ここからはイタリアへと抜けるのだ。





International BMW Motorrad Bikermeeting

BMWバイカーズミーティング

7/2

今日はいよいよメインイベントのBMWバイカーズミーティングが行われるガルミツシユバルテンキルヒエンに向かう。

「日本からの親善大使役をやって下さい」とMOJ事務局に託されたオフィシャルシャツを福島君、女房、私と3人着込み、バイクのシールドと車のボンネットには「BMWモーターサイクル・オーナーズクラブ オブジャパン」の巨大シールドを貼り付け、準備万端いざ出発！とするが小雨混じりの天候。「おい待てよ、寒いぞ。なんだって、最高気温が13度?!」持参したウエアを全て着込み、会場へ向かう。

ガルミツシユが近づくと、徐々にBMWバイカーが増えてくる。街中には会場への案内。各ホテルには歓迎の縦段幕。気分が高揚してく

フッセン泊。馬車でノイシユバンシユタウン城を見学。車椅子が使えず、母親は我々の見学が終わるまで2時間幽閉される。7/3

中世からの城塞都市、ローテンブルグを見学。アウトバーンでフランクフルトへ。

最後に

今回、帰りのフランクフルト空港の税関でもタンクバッグを手荷物にしていたら「バイクに乗るのか? バイクは何だ?」と話し掛けられた。かほどさように、かの地はバイク乗りに対する認知度が高く、ツーリングをするにはヨーロッパは絶好の地なのです。

貨幣がユーロに統一され物価は上がったようですが、マネーチェンジのわずらわしさが無くなり、ツーリング中、一度もパスポートの提示を求められることもありませんでした。



る。(しかし気温はあがらない)

会場には早い時間に着いたのでまだ半分くらいだったが、時間の経過と共に続々と集まってきた。皆、真冬の格好。合羽を着込んでいる人もいる。

(こんな軽装で走っているのは私だけ.....)

ピンバッジやシールドの交換やプレゼントをし、親善大使の役目を果たす。(そのあいだ母と姉はあまりに寒いので車の中に避難している)

色々なBMWを見るのも楽しいが、この寒さではたまらんとガルミツシユのホテルで熱いズッペンをいただく(スープだけは美味しいんだ。これが)

ボランティアで会場整理をしているおじさん達に手を振られ、ガルミツシユを後にする。続々と集まってくるBMWバイカーとすれ違つ。その度にピース!!!(一体感だね)

6月末から7月初めが、あちらのバカンスシーズン直前で道路がすいていて快適ですが、日本の気候にするると4月下旬から5月上旬くらいの気候となります。装備さえしっかりしていけば真に良い季節です。素晴らしい景色とワインディングを楽しむに皆さんも是非訪れてみてください。

(2006年にはサッカーのWカップがあるので、2005年がねらい目ですよ)





今回の旅で感じたことー

* 道路が全体に整備されて綺麗になっている。(日本のアスファルトに似てきたような・・・)
* 日本のように挨拶しないバイカーが見受けられるようになった。(以前はつまさいくらいに挨拶してきた)

* アメリカンが増えた! ハーレーというわけじゃなく全体にクルーザー系のバイクが増えている。

(ゴールドウイングや1200LTのようなゴージャス系も増えている)
しかしコスチュームは完全なツーリスト系!アウトバンの走行は、いわゆるアメリカンスタイルではつらすぎる?

* 今始めてガス入りの水のほうがノンガスのもより美味いと感じた。(口がすっきりしてよい!)

BMW R1200GS

今回レンタルしたR1200GSはすごい!

アウトバンの追い越し車線を延々と走っている。100GSのときは想いも寄らないことだったし、1100GSでも絶えず、後を気にしているようでした。

また整流効果も素晴らしく、シールドを一番立てた状態にするとヘルメットのシールドについた水滴が、首を振っても横に流れない!

今回、全行程2500km程の走行でしたが、「BMWの進化ぶり、恐るべし!」との感を深くしました。

また、ビールも日本で普通に飲む透き通ったピルスナービアより、白く濁ったバイスビアのほうが味があって美味しいと感じた。
現地の人々の嗜好がちょっと解った気分・・・

道路事情

* アウトバンの標識は圧倒的にドイツが見やすい。イタリア、フランスは文字が小さく、近隣の地名が出てくるので判り難い。

* アウトバンのアベレージ速度もドイツが一番。しかし来年からは、130km/h規制がひかれるそう。決まりを守る国民性だからおそろくぐつとスピードが落ちる?
* スイスの高速は年間3000円ほどのシールを買って貼る。以前はた

だのシールだったが今回は裏表に印刷してありシールドの裏側からも貼れるようになっていたこと、細かい切り込みが無数に入っており、剥がして別車両に再利用が不可となっていた。

* スイスの高速は国土が山ばかりなのでアベレージはあがらない。

(トラックが走るしね)
一般道のほうがお勧め

(どちらにしても時間はかかる)
* 交差点代わりのランナバウト(ロータリー)は便利!ロータリー内と左側優先さえ守ればいたってスムーズ!

Uターンなどもここで行うと便利!日本にも導入してもらいたい方式だ(停めるばかりが交行政じゃなかつの!)



ヨーロッパの走行ビデオ(走行中、女房がタンDEMシートから撮影)が福田モーターズで公開されています。
ライダー目線でヨーロッパの景色。峠(グリムセル・フルカ・ステルピオ)を撮って編集した力作です。
おひまなときに見に行ってください。
尚、赤坂のBMWモトロード東京では、ガレミッシュのBMWバイカーズミーティングの様子を写したビデオが公開されています。

田中周

~寒さにや参った!!~

ヨーロッパ親孝行ツーリング

26.June - 6. July. 2004

text & photo Syu TANAKA
(MOJ ID#3-6491)

